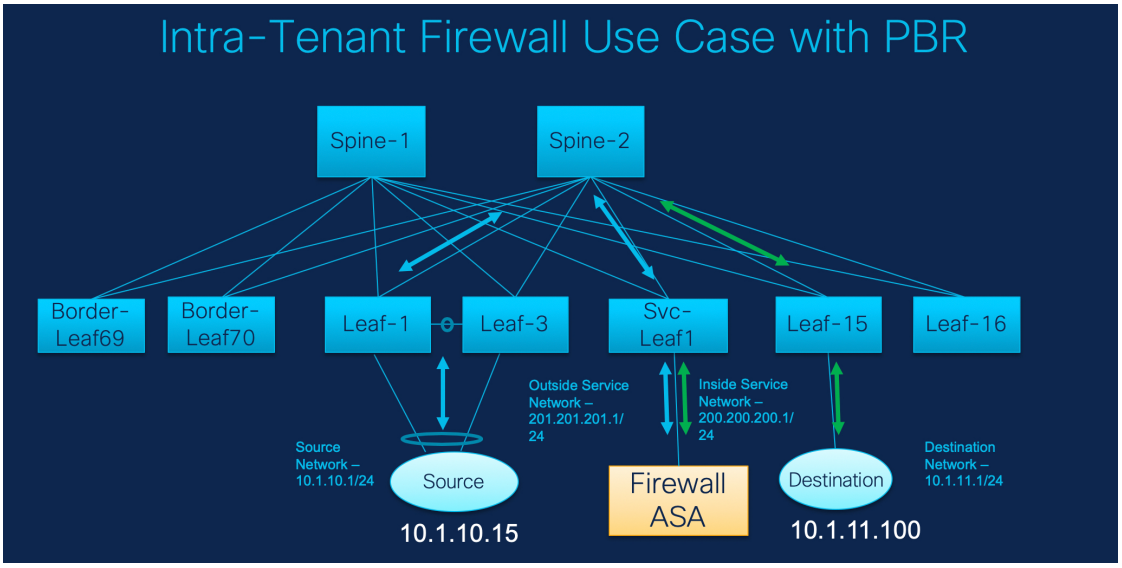
L4～L7 サービスのユースケース

ユースケース：ポリシーベースのルーティングを使用したテナント内ファイアウォール

トポロジの詳細については、以下の図を参照してください。



このトポロジでは、Leaf1 と Leaf3 は vPC ペアであり、**Source**（10.1.10.15）に **Source Network**（10.1.10.1/24）で接続されています。サービス リーフは仮想 **Firewall ASA** に接続され、リーフ 15 は **Destination**（10.1.11.100）に接続されます。このユース ケースでは、送信元ネットワークは「クライアント」を指し、宛先は「サーバー」を指します。

Source から **Destination** へ横断するトラフィックはすべて外部サービス ネットワークに送られる必要があり、ファイアウォールはトラフィックを許可または拒否する機能を実行します。その後、このトラフィックは内部サービス ネットワークにルーティングされ、宛先ネットワークに送信されます。トポロジはステートフルであるため、宛先から送信元に戻ってくるトラフィックは同じパスをたどります。

次に、NDFC でサービス リダイレクトを実行する方法を見てみましょう。

Note

- この使用例では、**Site_A** VXLAN ファブリックをプロビジョニングする方法については説明していません。このトピックの詳細については、『Cisco Nexus Dashboard Fabric Controller for LAN Configuration Guide』を参照してください。
- このユースケースは、サービス ノード（ファイアウォールまたはロード バランサ）の構成には対応していません。

以下のいずれかのパスを使用して、[サービス（Services）] タブに移動します。

[LAN] > **[サービス（Services）]**

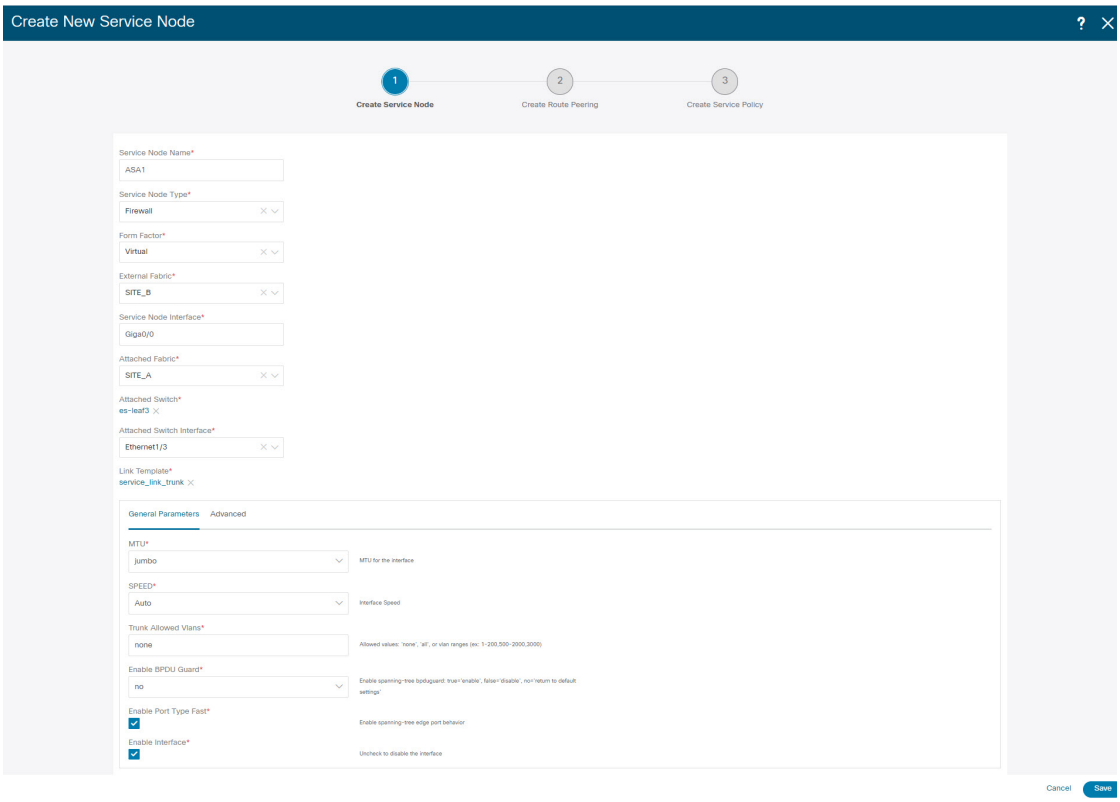
[LAN] > **[ファブリック（Fabrics）]** > **[ファブリックの概要（Fabric Overview）]** > **[サービス（Services）]**

[LAN] > **[スイッチ（Switches）]** > **[スイッチの概要（Switches Overview）]** > **[サービス（Services）]**

1. サービス ノードの作成

Procedure

ステップ 1 **[LAN]** > **[ファブリック（Fabrics）]** > **[ファブリックの概要（Fabric Overview）]** > **[サービス（Services）]** へ移動します。



ステップ 2 **[サービス（Service）]** タブで、**[アクション（Actions）]** > **[追加（Add）]**を選択します。

ステップ 3 サービス ノード名を入力し、**[ファイアウォール（Firewall）]** を **[タイプ（Type）]** ドロップダウン ボックスで指定します。

[サービス ノード名（Service Node Name）] は一意である必要があります。

ステップ 4 **[フォーム ファクター（Form Factor）]** ドロップダウン リストから、**[仮想（Virtual）]** を選択します。

ステップ 5 ドロップダウン リストから **[外部ファブリック（External Fabric）]** を選択し、サービス ノード（たとえば、ASA ファイアウォール）が配置されている外部ファブリックを選択します。

Note サービス ノードが外部ファブリックに属する必要があることを確認します。これは、サービス ノードを作成する際の前提条件です。

ステップ 6 サービス リーフに接続するサービスノードのインターフェイス名を入力します。

ステップ 7 サービス リーフである接続されたスイッチと、サービス リーフ上の対応するインターフェイスを選択します。

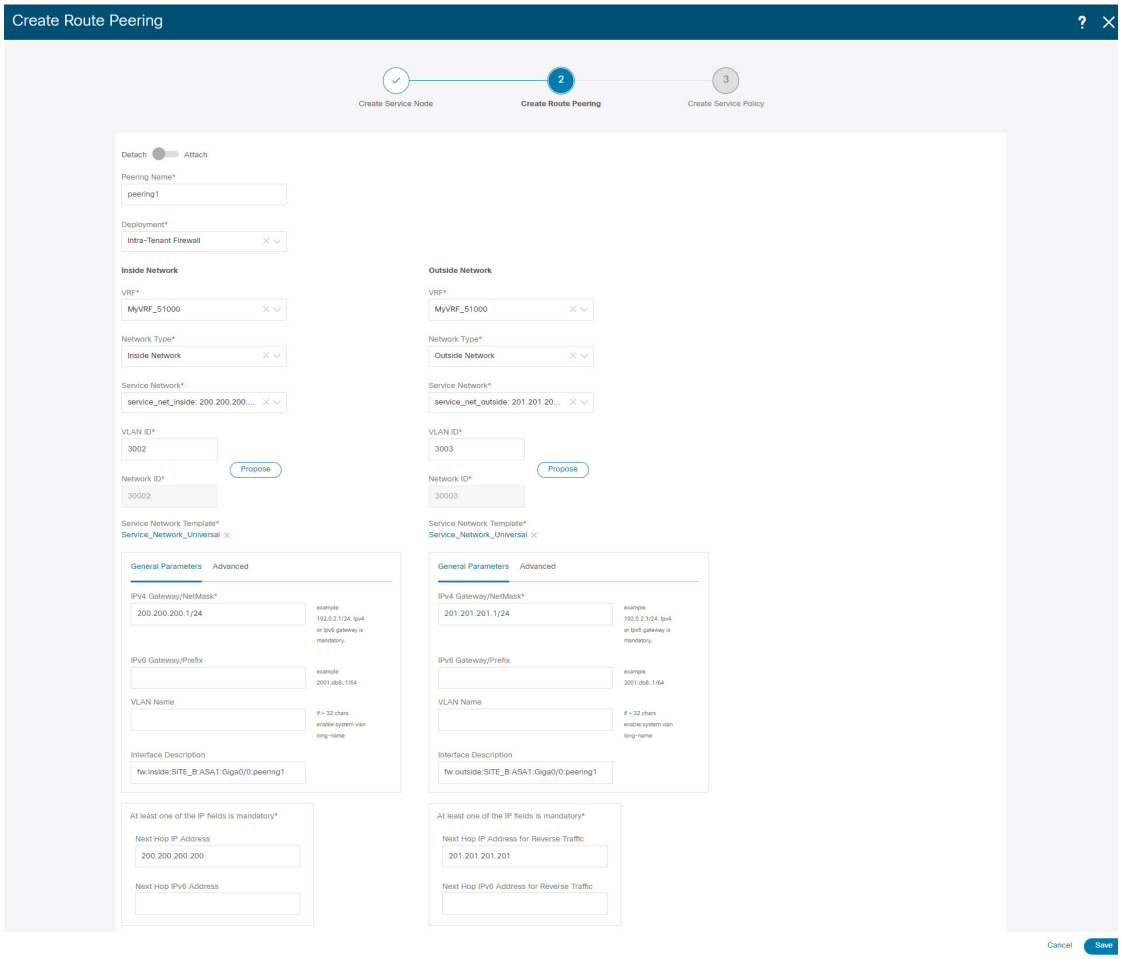
ステップ 8 **service_link_trunk** テンプレートを選択します。NDFC は、トランク、ポート チャネル、および vPC リンク テンプレートをサポートします。**[リンク テンプレート（Link Template）]** ドロップダウン リストで使用可能なリンク テンプレートは、選択した **[接続スイッチ インターフェイス （Attached Switch Interface）]** のタイプに基づいてフィルタリングされます。

ステップ 9 必要に応じて、**[一般パラメータ（General Parameters）]** と **[詳細（Advanced）]** パラメータを指定します。一部のパラメータには、デフォルト値が事前に入力されています。

ステップ 10 **[保存（Save）]** をクリックして、作成したサービス ノードを保存します。

2. ルート ピアリングの作成

サービス リーフとサービス ノード間のピアリングを構成しましょう。



Procedure

ステップ 1 ピアリング名を入力し、**[テナント内ファイアウォール（Intra-Tenant Firewall）]** を **[展開（Deployment）]** ドロップダウン リストから選択します。

ステップ 2 **[内部ネットワーク（Inside Network）]** で、**[VRF]** ドロップダウン リストから存在する VRF を選択し、**[内部ネットワーク（Inside Network）]** を **[ネットワーク タイプ（Network Type）]** で選択します。

[サービス ネットワーク（Service Network）] の名前を入力し、**[Vlan ID]** を指定します。**[提案（Propose）]** をクリックして、NDFC が次に使用可能な VLAN ID をファブリック設定で指定

されたサービス ネットワーク VLAN ID の範囲からフェッチできるようにすることもできます。デフォルトの**[サービス ネットワーク テンプレート（Service Network Template）]** は **Service_Network_Universal** です。

[一般パラメータ（General Parameters）] タブで、サービス ネットワークのゲートウェイ アドレスを指定します。**[ネクストホップ IP アドレス（Next Hop IP Address）]** を指定します。このネクスト ホップ アドレスは、「内部サービス ネットワーク」サブネット内にある必要があります。**[詳細設定（Advanced）]** タブの、デフォルトの **[ルーティング タグ（Routing Tag）]** 値は 12345 です。

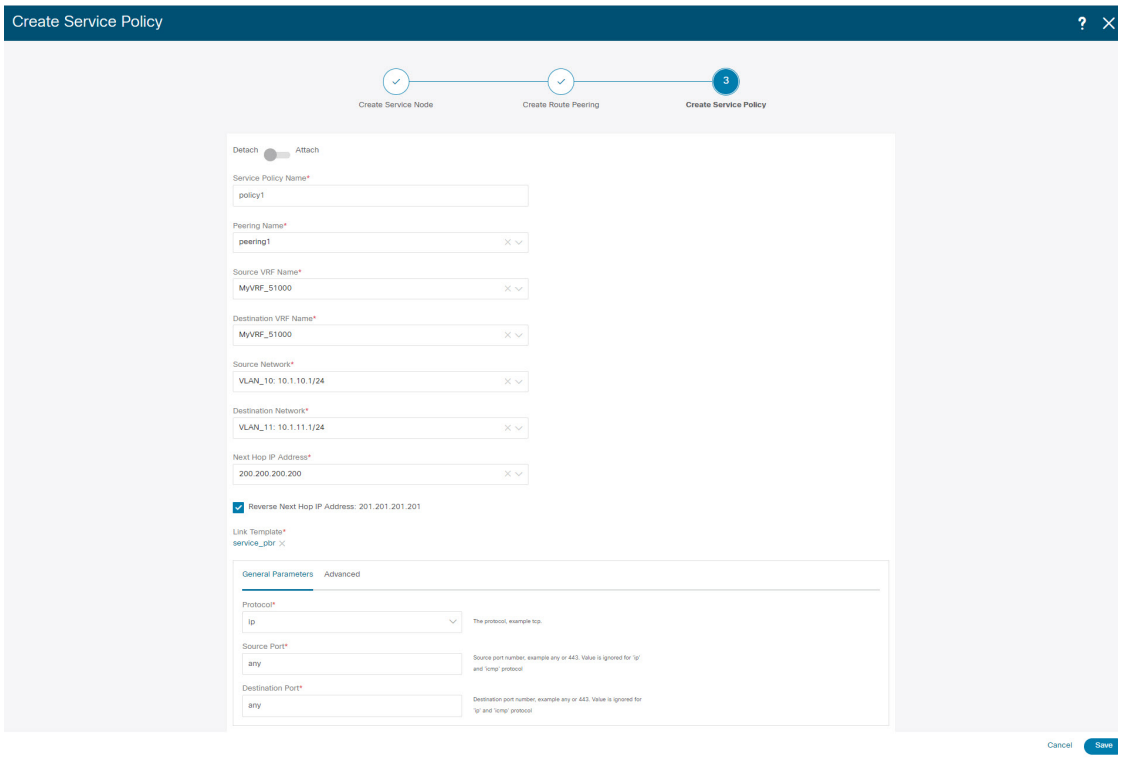
ステップ 3 **[外部ネットワーク（Outside Network）]** で必要なパラメータを指定し、**[リバース トラフィックのネクスト ホップ IP アドレス（Next Hop IP Address for Reverse Traffic）]** を指定します。リバース トラフィックのこのネクスト ホップ アドレスは、「外部サービス ネットワーク」サブネット内にある必要があります。

ステップ 4 **[保存（Save）]** をクリックして、作成したルート ピアリングを保存します。

3. サービスポリシーの作成

Procedure

ステップ 1 ポリシーの名前を指定し、**[ピアリング名（Peering Name）]** ドロップダウン リストからルート ピアリングを選択します。



ステップ 2 **[送信元 VRF 名（Source VRF Name）]** および **[宛先 VRF 名（Destination VRF Name）]** ドロップダウン リストから、送信元および宛先 VRF を選択します。テナント内ファイアウォール展開の送信元と宛先の VRF は同じである必要があります。

ステップ 3 **[送信元ネットワーク（Source Network）]** および **[宛先ネットワーク（Destination Network）]** ドロップダウン リストから、送信元ネットワークと宛先ネットワークを選択するか、**[ファブリックの概要（Fabric Overview）]**>**[サービス（Services）]**ウィンドウで定義されたネットワーク サブネット内にある送信元ネットワークまたは宛先ネットワークを指定します。

ステップ 4 ネクスト ホップおよびリバース ネクスト ホップのフィールドは、ルート ピアリングの作成中に入力された値に基づいて入力されます。**[リバース ネクスト ホップ IP アドレス（Reverse Next Hop IP Address）]** フィールドの横にあるチェック ボックスをオンにして、リバース トラフィックに対するポリシーの適用を有効にします。

ステップ 5 ポリシー テンプレートの **[一般パラメータ（General Parameters）]** タブで、**[ip]** を **[プロトコル（Protocol）]** ドロップダウン リストから選択します。また、**[任意（any）]** を **[送信元ポート（Source Port）]** および **[宛先ポート（Destination Port）]** フィールドで指定します。

Note **ip** および **icmp** プロトコルの場合、**任意**の送信元ポートと宛先ポートが ACL 生成に使用されます。別のプロトコルを選択して、対応する送信元ポートと宛先ポートを指定することもできます。NDFCは、既知のポート番号をスイッチで必要な形式に一致するように変換します。たとえば、ポート 80 を「www」に変換できます。

ステップ 6 **[詳細設定（Advanced）]** タブでは、**許可**が**[ルート マップ アクション（Route Map Action）]** のデフォルト、**なし**が**[ネクスト ホップ オプション（Next Hop Option）]** のデフォルトになっています。必要に応じて、これらの値を変更し、ACL 名とルート マップの一致シーケンス番

号をカスタマイズできます。詳細については、『レイヤ 4 ～ レイヤ 7 サービス構成ガイド』の テンプレート （Templates） を参照してください。

ステップ 7 **[保存（Save）]** をクリックして、作成したサービス ポリシーを保存します。

これで、リダイレクトのフローを実行して指定する手順は完了です。

5. サービス ポリシーの展開

1. **[サービス（Services）]** タブの **[サービス ポリシー（Service Policy）]** ウィンドウで、必要なピアリングを選択します。
2. **[アクション（Actions）]** > **[展開（Deploy）]** を選択します。

   [サービス ポリシーの展開（Deploy Service Policy）] ウィンドウが表示されます
3. **[展開（Deploy）]** をクリックして展開を確認します。

4. ルート ピアリングを展開する

1. **[サービス（Services）]** タブの **[ルート ピアリング（Route Peering）]** ウィンドウで、必要なピアリングを選択します。
2. **[アクション（Actions）]** > **[展開（Deploy）]** を選択します。

   [ルート ピアリングの展開（Deploy Route Peering）]ウィンドウが表示されます。
3. **[展開（Deploy）]** をクリックして展開を確認します。

6. 統計情報を表示する

それぞれのリダイレクト ポリシーが展開されたので、対応するトラフィックはファイアウォールにリダイレクトされます。

このシナリオを NDFC で視覚化するには、サービス ポリシーをクリックします。スライドイン ペインが表示されます。

指定した時間範囲のポリシーの累積統計を表示できます。

次の統計が表示されます。

- 送信元スイッチでの転送トラフィック
- 宛先スイッチでのリバース トラフィック
- サービス スイッチの双方向のトラフィック

7. Fabric Builder でのトラフィック フローの表示

外部ファブリックのサービス ノードはサービス リーフにアタッチされ、この外部ファブリックは NDFC トポロジで雲のアイコンとして表示されます。

Procedure

ステップ 1 サービス リーフをクリックすると、スライドイン ペインが表示されます。**[さらにフローを表示（Show more flows）]** をクリックします。リダイレクトされるフローを確認できます。

ステップ 2 **[詳細（Details）]**（**[サービス フロー（Service Flows）]** ウィンドウ）をクリックして、アタッチメントの詳細を表示します。

8.[トポロジ（Topology）]ウィンドウでの宛先へリダイレクトされたフローの視覚化

Procedure

ステップ 1 **[トポロジ（Topology）]** をクリックし、リーフをクリックして、宛先にリダイレクトされたフローを視覚化します。

ステップ 2 ドロップダウンリストから**[リダイレクトされたフロー（Redirected Flows）]**を選択します。

ステップ 3 ドロップダウンリストからポリシーを選択するか、検索フィールドにポリシー名、送信元ネットワーク、および宛先ネットワークを入力して検索を開始します。検索フィールドへの入力を始めると、自動的に補完されます。

送信元ネットワークと宛先ネットワークがアタッチされていて、フローがリダイレクトされているスイッチが、強調表示されます。

ステップ 4 サービス ノードは、トポロジ ウィンドウのリーフ スイッチに点線で接続されているように表示されます。点線にカーソルを合わせると、インターフェイスの詳細が表示されます。

送信元からのトラフィックは、ファイアウォールが構成されているサービス リーフを横断します。

ファイアウォール ルールに基づいて、トラフィックは宛先であるリーフ 15 に到達することが許可されます。

ユースケース：eBGP ピアリングを使用したテナント間ファイアウォール

トポロジの詳細については、以下の図を参照してください。

このトポロジでは、es-leaf1 と es-leaf2 が vPC ボーダー リーフ スイッチです。

次に、NDFC でサービス リダイレクトを実行する方法を見てみましょう。

このユースケースは、次の手順で構成されます。

Note

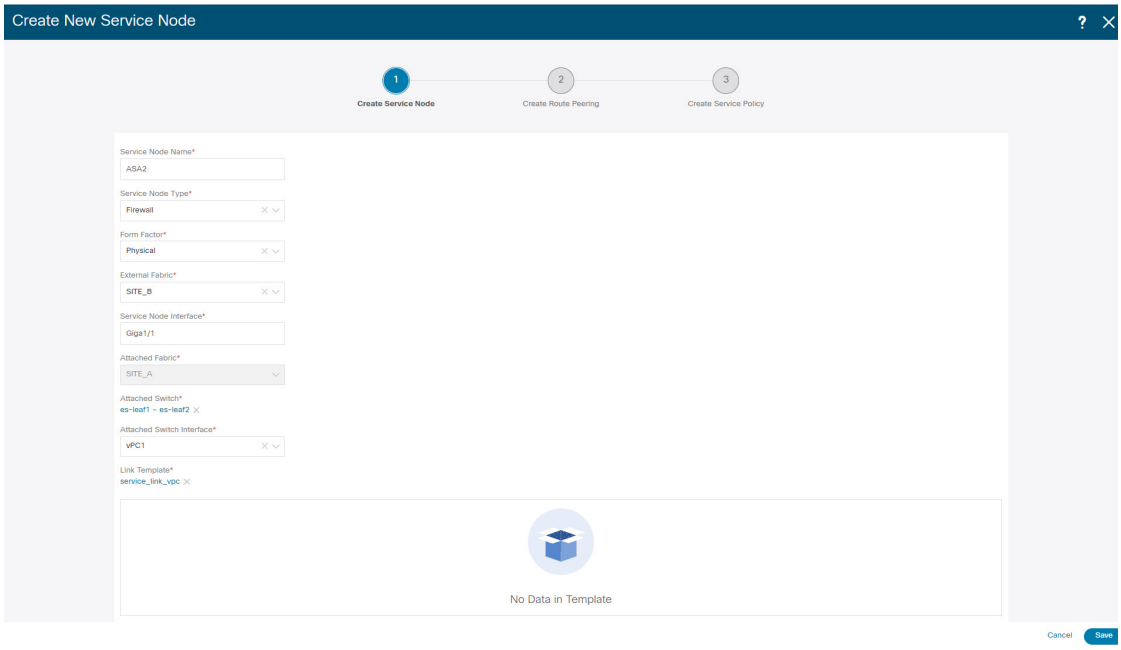
- 一部の手順は、テナント内ファイアウォールの展開のユース ケースで示されている手順に似ているため、そのユース ケースの手順への参照リンクが追加されています。
- サービス ポリシーは、テナント間ファイアウォールの展開には適用されません。

1. サービス ノードの作成

Procedure

ステップ 1 **[LAN]** > **[ファブリック（Fabrics）]** > **[ファブリックの概要（Fabric Overview）]** > **[サービス（Services）]** へ移動します。

ステップ 2 **[サービス（Service）]** タブで、**[アクション（Actions）]** > **[追加（Add）]**を選択します。



ステップ 3 **サービス ノード名**を入力し、[タイプ（Type）] ドロップダウン ボックスで**[ファイアウォール（Firewall）]** を指定します。**[サービス ノード名（Service Node Name）]** は一意である必要があります。

ステップ 4 **[フォーム ファクター（Form Factor）]** ドロップダウン リストから、**[仮想（Virtual）]** を選択します。

ステップ 5 **[外部ファブリック（External Fabric）]** ドロップダウン リストから、サービス ノード（たとえば、ASA ファイアウォール）が配置されている外部ファブリックを選択します。サービス ノードは外部ファブリックに属している必要があることに注意してください。これは、サービス ノードを作成する際の前提条件です。

ステップ 6 サービス リーフに接続するサービスノードのインターフェイス名を入力します。

ステップ 7 サービス リーフである接続されたスイッチと、サービス リーフ上の対応するインターフェイスを選択します。

ステップ 8 **service_link_trunk** テンプレートを選択します。NDFC は、トランク、ポート チャネル、および vPC リンク テンプレートをサポートします。**[リンク テンプレート（Link Template）]** ドロップダウン リストで使用可能なリンク テンプレートは、選択した **[接続スイッチ インターフェイス （Attached Switch Interface）]** のタイプに基づいてフィルタリングされます。

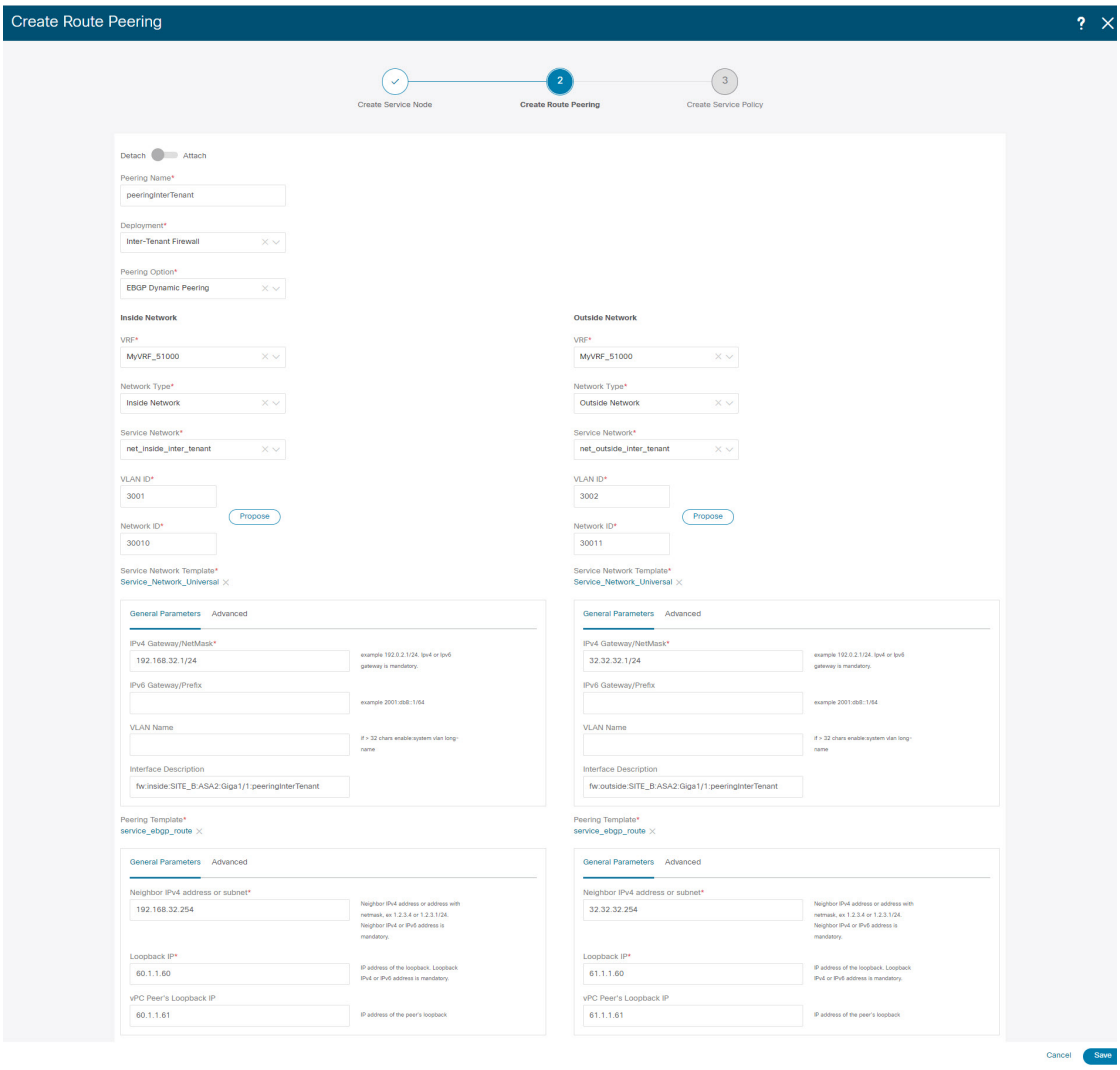
ステップ 9 必要に応じて、**[一般パラメータ（General Parameters）]** と **[詳細（Advanced）]** を指定します。一部のパラメータには、デフォルト値が事前に入力されています。

ステップ 10 **[保存（Save）]** をクリックして、作成したサービス ノードを保存します。

Note その他のサンプル スクリーンショットについては、ポリシー ベースのルーティング ユース ケースでのテナント内ファイアウォールの 1. サービス ノードの作成, on page 2 セクションを参照してください。

2. ルート ピアリングの作成

サービス リーフとサービス ノード間のピアリングを構成しましょう。



Procedure

ステップ 1 ピアリング名を入力し、**[テナント間ファイアウォール（Inter-Tenant Firewall）]** を **[展開（Deployment）]** ドロップダウン リストから選択します。**[ピアリング オプション（Peering Option）]** ドロップダウン リストから、**[eBGP ダイナミック ピアリング（eBGP Dynamic Peering）]** を選択します。

ステップ 2 **[内部ネットワーク（Inside Network）]** を **[VRF]** ドロップダウン リストで選択し、存在する VRF を選択し、**[内部ネットワーク（Inside Network）]** を**[ネットワーク タイプ（Network Type）]** で選択します。

[サービス ネットワーク（Service Network）] の名前を入力し、**[Vlan ID]** を指定します。**[提案（Propose）]** をクリックして、NDFC が次に使用可能な VLAN ID をファブリック設定で指定されたサービス ネットワーク VLAN ID の範囲からフェッチできるようにすることができます。デフォルトの**サービス ネットワーク テンプレート**は **Service_Network_Universal** です。

[一般パラメータ（General Parameters）] タブで、サービス ネットワークのゲートウェイ アドレスを指定します。**[ネクストホップ IP アドレス（Next Hop IP Address）]** を指定します。このネクスト ホップ アドレスは、「内部サービス ネットワーク」サブネット内にある必要があります。**[詳細設定（Advanced）]** タブの、デフォルトの **[ルーティング タグ（Routing Tag）]** 値は 12345 です。

ステップ 3 eBGP ダイナミック ピアリングのデフォルトのピアリング テンプレートは、**service_ebgp_route** です。

[一般パラメータ（General Parameters）] タブで、**[ネイバー IPv4（Neighbor IPv4）]** アドレス、**[ループバック IP（Loopback IP）]** アドレス、および **[vPC ピアのループバック IP（vPC Peer's Loopback IP）]** アドレスを指定します。ボーダー スイッチは vPC ペアです。

ステップ 4 **[詳細設定（Advanced）]** タブで、**[ローカル ASN（Local ASN）]** を指定し、**[ホスト ルートのアドバタイズ（Advertise Host Routes）]** チェックボックスをオンにします。このローカル ASN 値は、スイッチのシステム ASN を上書きするために使用され、ルーティング ループを回避するために必要です。

[ホスト ルートのアドバタイズ（Advertise Host Routes）] チェック ボックスがオンになっている場合、/32 および /128 ルートが表示されます。このチェックボックスが選択されていない場合、プレフィックス ルートが表示されます。

デフォルトでは、**[インターフェイスの有効化（Enable Interface）]** チェックボックスがオンになっています。

ステップ 5 **[外部ネットワーク（Outside Network）]** で必要なパラメータを指定し、**[リバース トラフィックのネクスト ホップ IP アドレス（Next Hop IP Address for Reverse Traffic）]** を指定します。リバース トラフィックのこのネクスト ホップ アドレスは、「外部サービス ネットワーク」サブネット内にある必要があります。

ステップ 6 eBGP ダイナミック ピアリングのデフォルトのピアリング テンプレートは、**service_ebgp_route** です。

[一般パラメータ（General Parameters）] タブで、**[ネイバー IPv4（Neighbor IPv4）]** アドレス、**[ループバック IP（Loopback IP）]** アドレス、および **[vPC ピアのループバック IP（vPC Peer's Loopback IP）]** アドレスを指定します。リーフ スイッチは vPC ペアです。

ステップ 7 **[詳細設定（Advanced）]** タブで、**[ローカル ASN（Local ASN）]** を指定し、**[ホスト ルートのアドバタイズ（Advertise Host Routes）]** チェックボックスをオンにします。このローカル ASN 値は、スイッチのシステム ASN を上書きするために使用され、ルーティング ループを回避するために必要です。

[ホスト ルートのアドバタイズ（Advertise Host Routes）] チェック ボックスがオンになっている場合、/32 および /128 ルートがアドバタイズされます。このチェックボックスが選択されていない場合、プレフィックス ルートがアドバタイズされます。

デフォルトでは、**[インターフェイスの有効化（Enable Interface）]** チェックボックスがオンになっています。

ステップ 8 **[保存（Save）]** をクリックして、作成したルート ピアリングを保存します。

3. ルート ピアリングを展開する

テナント内ファイアウォール展開のユースケースの 4. ルート ピアリングを展開する, on page 7 を参照してください。**InterTenantFW** が **[展開（Deployment）]** の下に表示されていることを確認します。

このユースケースの vPC ボーダー リーフの BGP 設定を以下に示します。

```
router bgp 12345
 router-id 10.2.0.1
 address-family l2vpn evpn
  advertise-pip
 neighbor 10.2.0.4
  remote-as 12345
  update-source loopback0
  address-family l2vpn evpn
   send-community
    send-community extended
 vrf myvrf_50001
  address-family ipv4 unicast
   advertise l2vpn evpn
   redistribute direct route-map fabric-rmap-redist-subnet
   maximum-paths ibgp 2
  address-family ipv6 unicast
   advertise l2vpn evpn
   redistribute direct route-map fabric-rmap-redist-subnet
   maximum-paths ibgp 2
  neighbor 192.168.32.254
   remote-as 9876
  local-as 65501 no-prepend replace-as // Note: This configuration corresponds to the
Local ASN template parameter value of the service_ebgp_route template of the inside
network with VRF myvrf_50001. The no-prepend replace-as keyword is generated along with
 the local-as command.
  update-source loopback2
  ebgp-multihop 5
  address-family ipv4 unicast
   send-community
   send-community extended
   route-map extcon-rmap-filter-allow-host out
vrf myvrf_50002
 address-family ipv4 unicast
  advertise l2vpn evpn
  redistribute direct route-map fabric-rmap-redist-subnet
  maximum-paths ibgp 2
 address-family ipv6 unicast
  advertise l2vpn evpn
  redistribute direct route-map fabric-rmap-redist-subnet
  maximum-paths ibgp 2
 neighbor 32.32.32.254
  remote-as 9876
  local-as 65502 no-prepend replace-as // Note: This configuration corresponds to the
Local ASN template parameter value of the service_ebgp_route template of the outside
network with VRF myvrf_50002. The no-prepend replace-as keyword is generated along with
 the local-as command.
  update-source loopback3
  ebgp-multihop 5
  address-family ipv4 unicast
   send-community
   send-community extended
   route-map extcon-rmap-filter-allow-host out
```

このユースケースの vPC スイッチ es-leaf1 のループバック インターフェイス設定を以下に示します。構成のループバック インターフェイスは、**service_ebgp_route** テンプレートの「ループバック IP」パラメータに対応します。**[ループバック IP（Loopback IP）]** パラメータ値（**service_ebgp_route** テンプレートで指定されたもの）を使用して、2 つの個別の VRF インスタンスの各 vPC スイッチに 2 つのループバック インターフェイスが自動的に作成されます。

```
interface loopback2
 vrf member myvrf_50001
 ip address 60.1.1.60/32 tag 12345
interface loopback3
 vrf member myvrf_50002
 ip address 61.1.1.60/32 tag 12345
```

vPC ピア スイッチ es-leaf2 のループバック インターフェイス設定：

```
interface loopback2
 vrf member myvrf_50001
 ip address 60.1.1.61/32 tag 12345
interface loopback3
 vrf member myvrf_50002
 ip address 61.1.1.61/32 tag 12345
```

ユースケース: ワンアーム ロード バランサ

トポロジの詳細については、以下の図を参照してください。

このトポロジでは、es-leaf1 と es-leaf2 が vPC リーフです。

次に、NDFC でサービス リダイレクトを実行する方法を見てみましょう。

以下のいずれかのパスを使用して、**[サービス（Services）]** タブに移動できます。

[LAN] > **[サービス（Services）]**

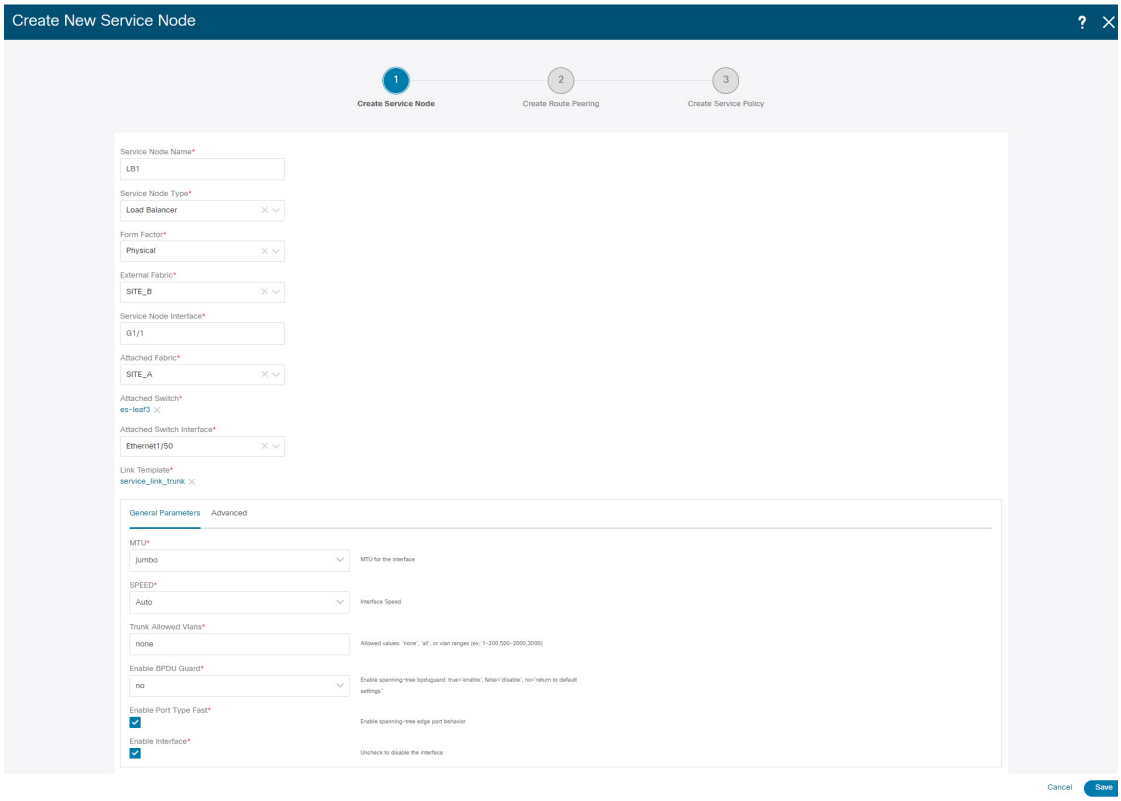
このユースケースは、次の手順で構成されます。

Note 一部の手順は、テナント内ファイアウォール展開のユースケースで示されている手順に似ているため、そのユースケースの手順に提供されているリンクを参照してください。

1. サービス ノードの作成

Procedure

ステップ 1 **[LAN]** > **[ファブリック（Fabrics）]** > **[ファブリックの概要（Fabric Overview）]** > **[サービス（Services）]** へ移動します。



ステップ 2 **[追加（Add）]** アイコン（**[サービス ノード（Service Nodes）]** ウィンドウ）をクリックします。

ステップ 3 ノード名を入力し、**[ロード バランサ（Load Balancer）]** を指定します（**[タイプ（Type）]** ドロップダウン ボックス）。**[サービス ノード名（Service Node Name）]** は一意である必要があります。

ステップ 4 **[フォーム ファクター（Form Factor）]** ドロップダウン リストから、**[仮想（Virtual）]** を選択します。

ステップ 5 **[スイッチの接続（Switch Attachment）]** セクションで、**[外部ファブリック（External Fabric）]** ドロップダウン リストから、サービス ノード（たとえば、ASA ファイアウォール）が配置されている外部ファブリックを選択します。サービス ノードは外部ファブリックに属している必要があることに注意してください。これは、サービス ノードを作成する際の前提条件です。

ステップ 6 サービス リーフに接続するサービスノードのインターフェイス名を入力します。

ステップ 7 サービス リーフである接続されたスイッチと、サービス リーフ上の対応するインターフェイスを選択します。

ステップ 8 **service_link_trunk** テンプレートを選択します。NDFC は、トランク、ポート チャネル、および vPC リンク テンプレートをサポートします。**[リンク テンプレート（Link Template）]** ドロップダウン リストで使用可能なリンク テンプレートは、選択した **[接続スイッチ インターフェイス （Attached Switch Interface）]** のタイプに基づいてフィルタリングされます。

ステップ 9 必要に応じて、**[一般パラメータ（General Parameters）]** と **[詳細（Advanced）]** パラメータを指定します。一部のパラメータには、デフォルト値が事前に入力されています。

ステップ 10 **[保存（Save）]** をクリックして、作成したサービス ノードを保存します。

Note その他のサンプル スクリーンショットについては、ポリシー ベース ルーティング使用例の、テナント内ファイアウォールの 1. サービス ノードの作成, on page 2 を参照してください。

2. ルート ピアリングの作成

サービス リーフとサービス ノード間のピアリングを構成しましょう。このユースケースでは、静的ルート ピアリングを設定します。

Procedure

ステップ 1 ピアリング名を入力し、**[ワンアーム モード（One-Arm Mode）]** を選択します（**[展開（Deployment）]** ドロップダウン リスト）。また、**[ピアリング オプション（Peering Option）]** ドロップダウン リストから、**[静的ピアリング（Static Peering）]** を選択します。

ステップ 2 **[最初のアーム（First Arm）]** で、必要な値を指定します。**[VRF]** ドロップダウン リストから存在する VRF を選択し、**[最初のアーム（First Arm）]** を **[ネットワーク タイプ（Network Type）]** から選択します。

ステップ 3 **[サービス ネットワーク（Service Network）]** の名前を入力し、**[Vlan ID]** を指定します。**[提案（Propose）]** をクリックして、NDFC がファブリック設定で指定されたサービス ネットワーク VLAN ID の範囲から次に使用可能な VLAN ID をフェッチできるようにします。デフォルトの **[サービス ネットワーク テンプレート（Service Network Template）]** は **Service_Network_Universal** です。

[一般パラメータ（General Parameters）] タブで、サービス ネットワークのゲートウェイ アドレスを指定します。**[ネクストホップ IP アドレス（Next Hop IP Address）]** を指定します。このネクスト ホップ アドレスは、最初のアームのサブネット内にある必要があります。**[詳細設定（Advanced）]** タブの、デフォルトの **[ルーティング タグ（Routing Tag）]** 値は 12345 です。

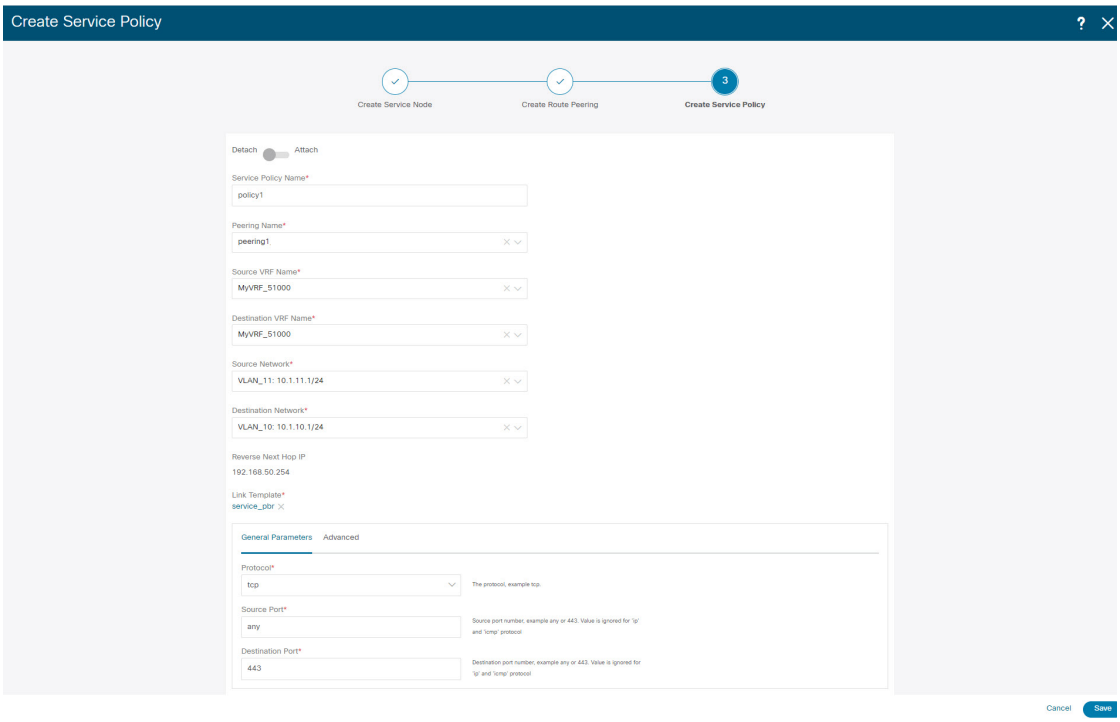
ステップ 4 デフォルトの **[ピアリング テンプレート（Peering Template）]** は **service_static_route** です。必要に応じて、**[静的ルート（Static Routes）]** フィールドにルートを追加します。

ステップ 5 リバース トラフィックの**[ネクスト ホップ IP アドレス（Next Hop IP Address）]** を指定します。

ステップ 6 **[保存（Save）]** をクリックして、作成したルート ピアリングを保存します。

3. サービスポリシーの作成

テナント内ファイアウォール展開のユースケースの 3. サービスポリシーの作成, on page 5 を参照してください。



4. ルート ピアリングを展開する

テナント内ファイアウォール展開のユースケースについての 4. ルート ピアリングを展開する, on page 7 を参照してください。**[OneArmADC]** が **[展開（Deployment）]** の下に表示されていることに注意してください。

5. サービス ポリシーの展開

テナント内ファイアウォール展開のユースケースについての 5. サービス ポリシーの展開, on page 7 を参照してください。ただし、このロード バランサのユース ケースには 2 台のサーバーがあるため、サーバー ネットワークごとに 2 つのサービス ポリシーを定義する必要があります。

6. 統計情報を表示する

テナント内ファイアウォール展開のユースケースの 6. 統計情報を表示する, on page 7 を参照してください。

7. Fabric Builder でのトラフィック フローの表示

テナント内ファイアウォール展開のユースケースの 7. Fabric Builder でのトラフィック フローの表示, on page 8 を参照してください。

8.[トポロジ（Topology）]ウィンドウでの宛先へリダイレクトされたフローの視覚化

テナント内ファイアウォール展開のユースケースの8.[トポロジ（Topology）]ウィンドウでの宛先へリダイレクトされたフローの視覚化, on page 8を参照してください。

サービス リーフの VRF 構成は以下のとおりです。

```
interface Vlan2000
 vrf member myvrf_50001
 ip policy route-map rm_myvrf_50001

interface Vlan2306
 vrf member myvrf_50001
vrf context myvrf_50001
vni 50001
 ip route 55.55.55.55/32 192.168.50.254 // Note: This is the static route
 rd auto
 address-family ipv4 unicast
  route-target both auto
  route-target both auto evpn
 address-family ipv6 unicast
  route-target both auto
  route-target both auto evpn
router bgp 12345
 vrf myvrf_50001
  address-family ipv4 unicast
   advertise l2vpn evpn
   redistribute direct route-map fabric-rmap-redist-subnet
   redistribute static route-map fabric-rmap-redist-static
   maximum-paths ibgp 2
  address-family ipv6 unicast
   advertise l2vpn evpn
   redistribute direct route-map fabric-rmap-redist-subnet
   redistribute static route-map fabric-rmap-redist-static
   maximum-paths ibgp 2
```

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。